

対象校No.
注4

学校コード F117110105393
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

事前相談

注2

金沢大学大学院 自然科学研究科 地球社会基盤学専攻 (博士後期課程)

【事前相談】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正後大学設置基準適用)

国立大学法人金沢大学
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	企画評価室
職名・氏名	フクシツチョウウコシマ ナオト 副室長 小島 直人
電話番号	076-264-5020
(夜間)	076-264-5020
e-mail	g1kikaku@adm.kanazawa-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

自然科学研究科

<地球社会基盤学専攻>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	16
5. 教育研究実施組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人金沢大学

(2) 大学名

金沢大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒920-1192
石川県金沢市角間町

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ワダ タカシ) 和田 隆志 (令和4年4月)		
学部長	(セト タカフミ) 瀬戸 章文 (令和6年4月)		
学科長等			

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
自然科学研究科 地球社会基盤学専攻 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	理学関係 工学関係	3年	19人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	57人	-	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	19人 () []	人 () []	19人 () []	人 () []	春季入学以外の学期区分を設ける予定	0.68倍	-								
志願者数	() []	8 [4]	15 [11]	9 [5]	() []	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳										
受験者数	() []	8 [4]	15 [11]	9 [5]	() []											
合格者数	() []	8 [4]	10 [6]	9 [5]	() []											
B 入学者数	() []	7 [4]	10 [6]	9 [5]	() []											
入学定員超過率 B/A	-		-						0.89		0.47					

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・転入学学生は記入しないでください。
 ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。
 ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期											
1 年次	-	-	-	-	[]	[]	[]	[]	7	10	9	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	[4]	[6]	[5]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	7	10	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[-]	[-]	[4]	[6]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	17	26	[]	[]	
	()	()	()	()	()	()	()	()	(-)	(-)	(-)	(-)	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	7 人	0 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	0 人	0 人	
令和7年度	26 人	0 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下 (○人)」のように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数 (a)}}{\text{令和2年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数 (a)}}{\text{令和3年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数 (a)}}{\text{令和4年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数 (a)}}{\text{令和5年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数 (a)}}{\text{令和6年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数 (a)}}{\text{令和7年度の在学者数 (a+b)}} = \frac{0}{26} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<自然科学研究科 地球社会基盤学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置					の 教員 数 （ 助 手 別）	
			必修	選択	自由	准 教 授	講 師	助 教	助 手	助 手		
大学院 G S 発展 科目	次世代研究者倫理	1①・③	1			1	2					
	次世代エッセンシャル実践	1～3通	1			16	14	1			10	
	次世代イノベーション開拓	1①・②	1								1	
	数理・データサイエンス・AI発展	1～3通	1			1						
	国際研究実践	1～3通	1			16	14	1			9	
	小計(5科目)	—		3	2	0	16	14	1	0	0	11
専 門 科 目	地殻活動論	1～3通		1		1						
	地形発達モデリング	1～3通		1		1						
	地球惑星ダイナミクス特論	1～3通		1		1						
	放射線地球学	1～3通		1		1						
	地球表層物質学	1～3通		1		1						
	大気物質循環論	1～3通		1		1						
	鉱物物理化学	1～3通		1		1						
	岩石鉱物磁気学	1～3通		1		1						
	マントル岩石学	1～3通		1		1						
	古環境変動解析論	1～3通		1		1						
	生態系進化学	1～3通		1		1						
	マグマ進化学II	1～3通		1		1						
	海洋リソスフェア進化学	1～3通		1		1						
	環境振動学	1～3通		1		1						
	セメントコンクリート組織学	1～3通		1		1						
	コンクリート構造物の診断学	1～3通③		1		1						
	構造設計学	1～3通		1		1						
	コンクリート構造の劣化抑制学	1～3通		1		1						
	コンクリート構造のメンテナンス工 学	1～3通		1		1						
	橋梁メンテナンス概論	1～3通		1		1						
	橋梁メンテナンスマネジメント概論	1～3通		1		1						
	地盤解析学特論	1～3通		1		1						
	地盤情報処理特論	1～3通		1		1						
	地盤防災工学	1～3通		1		1			1			
	沿岸域の水理	1～3通		1		1						
	応用水力学	1～3通		1		1						
	地球環境と水循環	1～3通		1		1						
	沿岸環境・防災工学	1～3通		1		1						
	計画支援システム学	1～3通		1		1						
	空間情報学特論	1～3通		1		1						
	防災計画学特論	1～3通		1		1						
	建築計画学特論	1～3通		1		1						
	環境プロセス工学特論	1～3通		1		1						
	環境微生物工学特論	1～3通		1		1						
	環境エアロゾル基礎	1～3通		1		1						
	極限環境科学概論	1～3通		1		1						
	水環境動態特論	1～3通		1		1						
	環境技術政策概論	1～3通		1		1						
	都市・環境政策論	1～3通		1		1						
	スマートシティ・計画支援システム概論	1～3通		1		1						
小計(40科目)	—		0	40	0	16	14	1	0	0	9	
専 科 目 共 通	自然科学特別研究	1～3通		2		16	14				9	
	ジョブ型研究インターンシップ	1～3通		2		1	1				1	
	小計(2科目)	—		2	2	0	16	14	0	0	0	10

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置					の 教員 数 （ 助 手 別）	
			必修	選択	自由	准 教 授	講 師	助 教	助 手	助 手		
大学院 G S 発展 科目	次世代研究者倫理	1①・③		1						3		
	次世代エッセンシャル実践	1～3通		1					14	19	2	1
	次世代イノベーション開拓	1①・②		1								1
	数理・データサイエンス・AI発展	1～3通		1								3
	国際研究実践	1～3通		1					14	19	2	11
	ジョブ型研究インターンシップ	1～3通		2					1	3		
小計(6科目)	—		3	4	0	14	19	0	2	0	16	
専 門 科 目	地殻活動論	1～3通		1		1						
	地形発達モデリング	1～3通		1		1						
	地球惑星ダイナミクス特論	1～3通		1		1						
	放射線地球学	1～3通		1		1						
	地球表層物質学	1～3通		1		1						
	大気物質循環論	1～3通		1		1						
	鉱物物理化学	1～3通		1		1						
	岩石鉱物磁気学	1～3通		1		1						
	マントル岩石学	1～3通		1		1						
	構造岩石学	1～3通		1		1					1	
	古環境変動解析論	1～3通		1		1						
	生態系進化学	1～3通		1		1						
	古気候学	1～3通		1		1				1		
	マグマ進化学II	1～3通		1		1						1
	海洋リソスフェア進化学	1～3通		1		1						1
	環境振動学	1～3通		1		1						
	セメントコンクリート組織学	1～3通		1		1					1	
	コンクリート構造物の診断学	1～3通③		1		1						
	構造設計学	1～3通		1		1						
	コンクリート構造の劣化抑制学	1～3通		1		1						
	コンクリート構造のメンテナンス工 学	1～3通		1		1						
	橋梁メンテナンス概論	1～3通		1		1						
	橋梁メンテナンスマネジメント概論	1～3通		1		1						
	地盤解析学特論	1～3通		1		1						
	地盤情報処理特論	1～3通		1		1						
	地盤防災工学	1～3通		1		1				1		
	沿岸域の水理	1～3通		1		1						
	応用水力学	1～3通		1		1						
	地球環境と水循環	1～3通		1		1						
	沿岸環境・防災工学	1～3通		1		1						
	計画支援システム学	1～3通		1		1						1
	都市計画学特論	1～3通		1		1				1		
	空間情報学特論	1～3通		1		1						
	防災計画学特論	1～3通		1		1						
	建築計画学特論	1～3通		1		1						
	環境プロセス工学特論	1～3通		1		1						
	環境微生物工学特論	1～3通		1		1						
	環境トキシコロジー特論	1～3通		1		1				1		
	環境エアロゾル基礎	1～3通		1		1						
	極限環境科学概論	1～3通		1		1						
水環境動態特論	1～3通		1		1							
環境技術政策概論	1～3通		1		1							
都市・環境政策論	1～3通		1		1							
交通行動モデリング特論	1～3通		1		1				1			
スマートシティ・計画支援システム概論	1～3通		1		1							
福祉住環境特論	1～3通		1		1				1			
小計(46科目)	—		0	46	0	14	19	0	1	0	9	
専 科 目 共 通	自然科学特別研究	1～3通		2		16	14				2	11
	ジョブ型研究インターンシップ	1～3通		2		0	0		14	19	0	2
	小計(1科目)	—		2	0	0	14	19	0	2	0	11

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					の専任教員が履修する単位数	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
サステナブル理工学プログラム	プログラム共通科目	異分野研究	1~3通			2						1	
		国際コミュニケーション演習	1~3通			2						1	
		国際プレゼンテーション演習	1~3通			2						1	
		国際プロジェクト演習	1~3通			2						1	
		長期インターンシップ	1~3通			2						1	
		海外フィールドワーク	1~3通			2						1	
	小計(6科目)	—		0	0	12	0	0	0	0	0	2	
	プログラム専門科目	宇宙理工学分野	プロジェクトマネジメント	1~3通			1						1
			宇宙ミッション創出概論	1~3通			1						1
			衛星機器開発特論	1~3通			1						1
			宇宙物理学特論	1~3通			1						1
			太陽地球系科学特論	1~3通			1						1
		小計(5科目)	—		0	0	5	0	0	0	0	0	4
		環境・エネルギー理工学分野	環境・エネルギー理工学特論	1~3通			1						1
			技術経営論	1~3通			1						1
イノベーション方法論			1~3通			1						1	
小計(3科目)		—		0	0	3	0	0	0	0	0	3	
工学数理分野	数値・ナノ物質理工学特論1	1~3通			1						1		
	数値・ナノ物質理工学特論2	1~3通			1						1		
	小計(2科目)	—		0	0	2	0	0	0	0	0	1	
	工社学分野	超スマート社会理工学領域探索1	1~3通			1						1	
		超スマート社会理工学領域探索2	1~3通			1						1	
小計(2科目)	—		0	0	2	0	0	0	0	0	1		
理工学分野	フィールド生物学特論	1~3通			1						1		
	地球惑星科学特論	1~3通			1	1					1		
	社会基盤工学特論	1~3通			1	1					1		
	小計(3科目)	—		0	0	3	2	0	0	0	0	1	
合計(68科目)	—		5	44	27	16	14	1	0	0	24		
卒業要件及び履修方法													
<p>博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、履修方法に定める方法により、10単位以上を修得し、本学が別に定める英語能力の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年(修士課程及び博士前期課程を修了した者)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 次の要件を満たし、10単位以上修得すること。 ・大学院OS発展科目から必修科目3単位を含む4単位以上を修得すること。 ・必修科目として、自然科学特別研究2単位を修得すること。</p> <p><サステナブル理工学プログラムの履修方法> サステナブル理工学プログラムは、自然科学研究科全専攻にまたがる分野横断教育として開講する。博士課程5年一貫型の副専攻である。博士前期課程において履修した分野のプログラムを引き続き履修することができる。プログラムを修了するためには、博士前期課程でのプログラム履修に加え博士後期課程では、次の2つの要件を満たさなければならない。 (1)プログラム共通科目から2単位以上修得すること。ただし、環境・エネルギー理工学分野を履修する学生は、国際プレゼンテーション演習の2単位を含むこと。 (2)プログラム専門科目の当該分野の科目から1単位以上修得すること。</p>													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			基幹教員等の配置					の専任教員が履修する単位数	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
サステナブル理工学プログラム	プログラム共通科目	異分野研究	1~3通			2	1					4	
		国際コミュニケーション演習	1~3通			2						1	
		国際プレゼンテーション演習	1~3通			2	1					4	
		国際プロジェクト演習	1~3通			2	1					4	
		長期インターンシップ	1~3通			2	1					4	
		海外フィールドワーク	1~3通			2	1					4	
	小計(6科目)	—		0	0	12	1	0	0	0	0	5	
	プログラム専門科目	宇宙理工学分野	プロジェクトマネジメント	1~3通			1						1
			宇宙ミッション創出概論	1~3通			1						1
			衛星機器開発特論	1~3通			1						1
			宇宙物理学特論	1~3通			1						1
			太陽地球系科学特論	1~3通			1						1
		小計(5科目)	—		0	0	5	0	0	0	0	0	4
		環境・エネルギー理工学分野	環境・エネルギー理工学特論	1~3通			1						1
			ビジネス・技術マネジメント戦略論	1~3通			1						1
イノベーション方法論			1~3通			1						1	
小計(3科目)		—		0	0	3	0	0	0	0	0	3	
工学数理分野	数値・ナノ物質理工学特論1	1~3通			1						1		
	数値・ナノ物質理工学特論2	1~3通			1						1		
	小計(2科目)	—		0	0	2	0	0	0	0	0	1	
	工社学分野	超スマート社会理工学領域探索1	1~3通			1						1	
		超スマート社会理工学領域探索2	1~3通			1						1	
小計(2科目)	—		0	0	2	0	0	0	0	0	1		
理工学分野	フィールド生物学特論	1~3通			1						1		
	地球惑星科学特論	1~3通			1	1					1		
	社会基盤工学特論	1~3通			1	1					1		
	小計(3科目)	—		0	0	3	2	0	0	0	0	1	
合計(74科目)	—		5	60	27	14	19	0	2	0	28		
卒業要件及び履修方法													
<p>博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、履修方法に定める方法により、10単位以上を修得し、本学が別に定める英語能力の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年(修士課程及び博士前期課程を修了した者)にあっては当該課程における在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>【履修方法】 次の要件を満たし、10単位以上修得すること。 ・大学院OS発展科目から必修科目3単位を含む4単位以上を修得すること。 ・必修科目として、自然科学特別研究2単位を修得すること。</p> <p><サステナブル理工学プログラムの履修方法> サステナブル理工学プログラムは、自然科学研究科全専攻にまたがる分野横断教育として開講する。博士課程5年一貫型の副専攻である。博士前期課程において履修した分野のプログラムを引き続き履修することができる。プログラムを修了するためには、博士前期課程でのプログラム履修に加え博士後期課程では、次の2つの要件を満たさなければならない。 (1)プログラム共通科目から2単位以上修得すること。ただし、環境・エネルギー理工学分野を履修する学生は、国際プレゼンテーション演習の2単位を含むこと。 (2)プログラム専門科目の当該分野の科目から1単位以上修得すること。</p>													

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数				基幹教員等の配置				の専任教員数(当年度)		
				必修	選択	自由	教養	准教授	講師	助教	助手			
大学院GS発展科目	次世代研究者倫理	1①・②		1			2							
	次世代エッセンシャル実践	1～3通		1			16	17	1				10	
	次世代イノベーション開拓	1①・②			1								1	
	数値・データサイエンス・AI発展	1～3通			1								2	
	国際研究実践	1～3通		1			16	18	1				9	
	ジョブ型研究インターンシップ	1～3通			2		1	1					1	
	小計(6科目)	—		3	4	0	16	18	1	0	0	0	14	
専門科目	地震活動論	1～3通			1		1							
	地形発達モデリング	1～3通			1			1						
	地球惑星ダイナミクス特論	1～3通			1			1						
	放射線地球学	1～3通			1			1						
	地球表層物質学	1～3通			1			1						
	大気物質循環論	1～3通			1			1						
	鉱物物理化学	1～3通			1			1						
	岩石鉱物磁気学	1～3通			1			1						
	マントル岩石学	1～3通			1			1						
	古環境変動解析論	1～3通			1			1						
	生態系進化化学	1～3通			1			1						
	古気候学	1～3通			1			1						
	マagma進化化学II	1～3通			1								1	
	海洋リソフェア進化化学	1～3通			1								1	
	環境振動学	1～3通			1			1						
	セメントコンクリート組織学	1～3通			1			1						
	コンクリート構造物の診断学	1～3通③			1			1						
	構造設計学	1～3通			1			1						
	コンクリート構造の劣化抑制学	1～3通			1								1	
	コンクリート構造のメンテナンス工学	1～3通			1								1	
	橋梁メンテナンス概論	1～3通			1								1	
	橋梁メンテナンスマネジメント概論	1～3通			1								1	
	地盤解析学特論	1～3通			1			1						
	地盤情報処理特論	1～3通			1			1						
	地震防災工学	1～3通			1				1					
	沿岸域の水理	1～3通			1			1						
	応用水力学	1～3通			1			1						
	地球環境と水循環	1～3通			1			1						
	沿岸環境・防災工学	1～3通			1			1						
	計画支援システム学	1～3通			1			1						
	空間情報学特論	1～3通			1			1						
	防災計画学特論	1～3通			1			1						
	建築計画学特論	1～3通			1			1						
	環境プロセス工学特論	1～3通			1			1						
	環境微生物学特論	1～3通			1			1						
	環境トキシコロジー	1～3通			1			1						
	環境エアロゾル基礎	1～3通			1			1						
	極限環境科学概論	1～3通			1			1						
	水環境動態特論	1～3通			1			1						
	環境技術政策概論	1～3通			1								1	
	都市・環境政策論	1～3通			1								1	
	交通行動モデリング特論	1～3通			1			1						
	スマートシティ・計画支援システム概論	1～3通			1								1	
	小計(43科目)	—		0	43	0	16	17	1	0	0	0	9	
専攻目共通	自然科学特別研究	1～3通		2			16	18					9	
	小計(1科目)	—		2	0	0	16	18	0	0	0	0	9	
カステナブル理工学プログラム	プログラム共通科目	異分野研究	1～3通			2							1	
		国際コミュニケーション演習	1～3通			2							1	
		国際プレゼンテーション演習	1～3通			2							1	
		国際プロジェクト演習	1～3通			2							1	
		長期インターンシップ	1～3通			2							1	
		海外フィールドワーク	1～3通			2							1	
		小計(6科目)	—		0	0	12	0	0	0	0	0	2	
	宇宙理工学分野	プロジェクトマネジメント	1～3通			1								1
		宇宙ミッション創出概論	1～3通			1								1
		衛星機器開発特論	1～3通			1								1
		宇宙物理学特論	1～3通			1								1
		太陽地球系科学特論	1～3通			1								1
		小計(5科目)	—		0	0	5	0	0	0	0	0	4	
	環境・理工学分野	環境・エネルギー理工学特論	1～3通			1								1
		ビジネス・技術マネジメント戦略論	1～3通			1								1
		イノベーション方法論	1～3通			1								1
		小計(3科目)	—		0	0	3	0	0	0	0	0	3	
	工学物質分野	数値・ナノ物質理工学特論1	1～3通			1								1
		数値・ナノ物質理工学特論2	1～3通			1								1
		小計(2科目)	—		0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
	エト超学社分	超スマート社会理工学領域探索1	1～3通			1								1
		超スマート社会理工学領域探索2	1～3通			1								1
		小計(2科目)	—		0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
	ル生ド野	フィールド生物学特論	1～3通			1								1
		地球惑星科学特論	1～3通			1		1						1
		社会基盤工学特論	1～3通			1		1						1
		小計(3科目)	—		0	0	3	2	0	0	0	0	0	1
	合計(68科目)	—		5	47	27	16	18	1	0	0	0	26	

卒業要件及び履修方法

博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、履修方法に定める方法により、10単位以上を修得し、本学が別に定める英語能力の基準を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年(修士課程及び博士前期課程を修了した者にあつては当該課程における在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

【履修方法】

- ・次の要件を満たし、10単位以上修得すること。
- ・大学院GS発展科目から必修科目3単位を含む4単位以上を修得すること。
- ・必修科目として、自然科学特別研究2単位を修得すること。

<サステナブル理工学プログラムの履修方法>

サステナブル理工学プログラムは、自然科学研究科全専攻にまたがる分野横断教育として開講する、博士課程5年一貫型の副専攻である。博士前期課程において履修した分野のプログラムを引き続き履修することができる。プログラムを修了するためには、博士前期課程でのプログラム履修に加え博士後期課程では、次の2つの要件を満たさなければならない。

- (1)プログラム共通科目から2単位以上修得すること。ただし、環境・エネルギー理工学分野を履修する学生は、国際プレゼンテーション演習の2単位を含むこと。
- (2)プログラム専門科目の当該分野の科目から1単位以上修得すること。

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・「認可時又は届出時」は設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の主要授業科目欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼担」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)数」、「認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)数、「認可時又は届出時の兼任・兼担」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
 - ・(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の下に「(未開講)」として記入してください。
 - ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には【※】、「臨床実務実習」による授業科目には【臨】、「連携実務実習」による授業科目には【連】を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
 - ・(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度】(新)→【令和6年度】(新)→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度】(旧)→【令和6年度】(旧)
- (1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・担当教員の変更により、「次世代研究者倫理」の「教授1」「准教授2」を「准教授2」に変更。
- ・担当教員の追加により、「次世代エッセンシャル実践」の「准教授14」を「准教授17」に変更。
- ・担当教員の追加により、「国際研究実践」、「自然科学特別研究」の「准教授14」を「准教授18」に変更。
- ・担当教員の変更により、「数理・データサイエンス・AI発展」を「兼担2」に変更。
- ・全学的な大学院教育改革に伴い、「ジョブ型研究インターンシップ」の区分を「専攻共通科目」から「大学院GS発展科目」に変更。
- ・教育内容の豊富化のため、「古気候学」、「環境トキシコロジー」、「交通行動モデリング特論」を新設。
- ・授業内容をより明確にするため、「技術経営論」の科目名を「ビジネス・技術マネジメント戦略論」に変更。

【令和7年度】

- ・担当教員の変更により、「次世代研究者倫理」の「准教授2」(令和6年度変更分)を「准教授3」に変更。
- ・担当教員の異動及び見直しにより、「次世代エッセンシャル実践」の「教授16」、「准教授17」(令和6年度変更分)、「講師1」、「兼担10」を「教授14」、「准教授19」、「助教2」、「その他1」に変更。
- ・担当教員の変更により、「数理・データサイエンス・AI発展」の「その他2」(令和6年度変更分)を「その他3」に変更。
- ・担当教員の異動により、「国際研究実践」の「教授16」「准教授18」(令和6年度変更分)、「講師1」、「その他9」を「教授14」、「准教授19」、「助教2」、「その他11」に変更。
- ・担当教員の変更により、「ジョブ型研究インターンシップ」の「教授1」、「その他1」を「教授1」、「准教授3」に変更。
- ・担当教員の追加に伴い、教育内容の豊富化のため、「構造岩石学」、「都市計画学特論」、「福祉環境特論」を新設。
- ・担当教員の変更により、「セメントコンクリート組織学」の「教授1」を「准教授1」に変更。
- ・担当教員の変更により、「地震防災工学」の「講師1」を「准教授1」に変更。
- ・担当教員の異動により、「計画支援システム学」の「教授1」を「その他1」に変更。
- ・担当教員の異動により、「自然科学特別研究」の「教授16」、「准教授18」(令和6年度変更分)、「その他9」を「教授14」、「准教授19」、「助教2」、「その他11」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、サステナブル理工学プログラムの「異分野研究」、「国際プレゼンテーション演習」、「国際プロジェクト演習」、「長期インターンシップ」、「海外フィールドワーク」の「その他1」を「教授1」、「その他4」に変更。

- (注)・2(1)-① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし」と記入してください。
- ・変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合(例:「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更)や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合(例:「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更)については、記入しないでください。
 - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	43 科目	21 科目	68 科目	4 科目 []	49 科目 [6]	21 科目 []	74 科目 [6]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{68} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 センター新設のため (6) 敷地面積再調査の反映 及び用途整理による修 正のため(7)			
	校 舎 敷 地	842,177 m ² 844,686 m² 960,426 m²	0 m ²	0 m ²	842,177 m ² 844,686 m² 960,426 m²				
	そ の 他	1,565,222 m ² 1,562,710 m²	0 m ²	0 m ²	1,565,222 m ² 1,562,710 m²				
	合 計	2,407,396 m ² 2,523,136 m² 2,523,136 m²	0 m ²	0 m ²	2,407,396 m ² 2,523,136 m² 2,523,136 m²				
(2) 校 舎	専 用	287,689 m ² 284,147 m²	0 m ²	0 m ²	287,689 m ² 284,147 m²	大学全体 建物新增築のため(7)			
	(287,689 m ²) (284,147 m²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(287,689 m ²) (284,147 m²)					
	講義室	181室 182室 183室	実験・実習室 977室 954室 946室	演習室 302室 305室 307室	新設研究科等の 専任教員研究室 35室 31室		大学全体 専任教員増加のため (6) 教室等用途変更・整理 のため(7)		
(3) 講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室									
(4) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	専攻単位で特定不能の ため、大学全体の数量 購入・廃棄等のため (6) 購入・廃棄等のため (7)	
	自然科学研究科 地球社会基盤学 専攻	1,920,125 [674,653] 1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	20,184 [16,701] 18,598 [15,525] 18,292 [15,504]	43,595 [15,879] 43,587 [15,888] 34,666 [12,153]	10,735 [9,112] 10,409 [8,826] 10,710 [9,166]	12,775 10,605 10,104	212 373		
		1,920,125 [674,653] 1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	20,184 [16,701] 18,598 [15,525] 18,292 [15,504]	43,595 [15,879] 43,587 [15,888] 34,666 [12,153]	10,735 [9,112] 10,409 [8,826] (10,710 [9,166])	(12,775) (10,605) (10,104)	(212) (373)		
	計	1,920,125 [674,653] 1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	20,184 [16,701] 18,598 [15,525] 18,292 [15,504]	43,595 [15,879] 43,587 [15,888] 34,666 [12,153]	10,735 [9,112] 10,409 [8,826] (10,710 [9,166])	12,775 10,605 10,104	212 373		
		1,920,125 [674,653] 1,943,945 [679,770] 1,932,498 [678,510]	20,184 [16,701] 18,598 [15,525] 18,292 [15,504]	43,595 [15,879] 43,587 [15,888] 34,666 [12,153]	10,735 [9,112] 10,409 [8,826] (10,710 [9,166])	(12,775) (10,605) (10,104)	(212) (373)		
(5) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号（その 1 の 2）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 「（4）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（5）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		金 沢 大 学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考				
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度						
融合学域		165	3年次40	595		0.98	-								
先導学類	4	55	3年次25	270	学士(学術)	0.94	-	-	令和3	石川県金沢市角間町					
観光デザイン学類	4	55	3年次15	175	学士(学術)	1.03	-	令和5 令和6	令和4	同上	令和5年度入学定員変更(5) 令和6年度入学定員変更(35)				
スマート創成科学類	4	55	3年次20	150	学士(学術)	1.00	-	令和6	令和5	同上	令和6年度入学定員変更(35)				
人間社会学域		668	-	2,677		1.10	1.03								
人文学類	4	138	-	552	学士(文学)	1.12	1.05	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員変更(△4) 令和4年度入学定員変更(△3)				
法学類	4	150	-	600	学士(法学)	1.08	1.03	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△10) 令和4年度入学定員変更(△10) 令和5年度編入学定員変更(△5) 令和6年度編入学定員変更(△5)				
経済学類	4	131	-	524	学士(経済学)	1.10	1.04	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△4)				
学校教育学類 共同教員養成課程	4	85	-	340	学士(教育学)	0.99	-	-	令和4	同上					
地域創造学類	4	83	-	337	学士(地域創造学)	1.09	1.03	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△2) 令和5年度入学定員変更(△5)				
国際学類	4	81	-	324	学士(国際学)	1.21	1.04	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△2) 令和4年度入学定員変更(△2)				
学校教育学類	4	-	-	-	学士(教育学)	-	-	-	平成20	同上	令和4年度学生募集停止				
理工学域		619	3年次40	2,496		1.08	1.04								
数物科学類	4	78	3年次5	326	学士(理学)	1.10	1.04	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員変更(△2) 令和5年度入学定員変更(△4)				
物質化学類	4	78	3年次4	321	学士(理学・工学)	1.08	1.05	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△2) 令和5年度入学定員変更(△1)				
機械工学類	4	89	3年次10	394	学士(工学)	1.14	1.02	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更(△3) 令和5年度入学定員変更(△3) 令和7年度入学定員変更(5)				
フロンティア工学類	4	108	3年次5	431	学士(工学)	1.07	1.03	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更(△3) 令和5年度入学定員変更(△4) 令和7年度入学定員変更(5)				
電子情報通信学類	4	116	3年次7	400	学士(工学)	1.08	1.05	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更(△10) 令和4年度入学定員変更(△10) 令和5年度編入学定員変更(△5)				
地球社会基盤学類	4	94	3年次7	394	学士(理学・工学)	1.07	1.03	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更(△2) 令和5年度入学定員変更(△4)				
生命理工学類	4	56	3年次2	230	学士(理学・工学)	1.03	1.02	-	平成30	同上	令和3年度入学定員変更(△2) 令和5年度入学定員変更(△4)				
機械工学類(旧)	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	平成20	同上	平成30年度学生募集停止				
医薬保健学域		384	2年次5 3年次65	1,915		1.01	-								
医学類	6	112	2年次5	697	学士(医学)	1.02	1.01	令和6	平成20	石川県金沢市宝町13-1	入学定員変更(12) ※臨時定員増継続				
薬学類	6	65	-	360	学士(薬学)	1.02	1.02	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度入学定員変更(30)				
医薬科学類	4	18	-	72	学士(生命薬科学・創薬科学)	1.09	1.04	-	令和3	同上					
保健学類				786		0.99	-								
看護学専攻	4	79	-	320	学士(看護学)	0.99	-	-	平成20	石川県金沢市小立野5-11-80	令和3年度入学定員変更(△1) 令和5年度編入学定員変更(△6) 令和7年度編入学定員変更(△6)				
診療放射線技術専攻	4	40	-	163	学士(保健学)	1.00	-	-	平成20	同上	令和5年度編入学定員変更(△2) 令和7年度編入学定員変更(△3)				
検査技術科学専攻	4	40	-	163	学士(保健学)	1.00	-	-	平成20	同上	令和5年度編入学定員変更(△2) 令和7年度編入学定員変更(△3) 令和				
理学療法専攻	4	15	3年次5	70	学士(保健学)	1.01	-	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△5)				
作業療法専攻	4	15	3年次5	70	学士(保健学)	0.94	-	-	平成20	同上	令和3年度入学定員変更(△5)				
創薬科学類	4	-	-	-	学士(創薬科学)	-	-	-	平成20	石川県金沢市角間町	令和3年度学生募集停止				

大学全体	1836	2年次5 3年次100	7,683	-	-	-	-
------	------	----------------	-------	---	---	---	---

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあつては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

<自然科学研究科 地球社会基盤学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

【令和7年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	五十嵐 心一 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 セメントコンクリート組織学 自然科学特別研究	専	教授	五十嵐 心一 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 セメントコンクリート組織学 自然科学特別研究				
専	教授	榎田 真也 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 応用水力学 自然科学特別研究	専	教授	榎田 真也 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 応用水力学 自然科学特別研究	専	教授	榎田 真也 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 応用水力学 自然科学特別研究
専	教授	大橋 政司 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 極限環境科学概論 自然科学特別研究	専	教授	大橋 政司 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 極限環境科学概論 自然科学特別研究	専	教授	大橋 政司 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 極限環境科学概論 自然科学特別研究 ジョブ型研究インターンシップ
専	教授	栗橋 祐介 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 構造設計学 自然科学特別研究	専	教授	栗橋 祐介 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 構造設計学 自然科学特別研究	専	教授	栗橋 祐介 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 構造設計学 自然科学特別研究
専	教授	谷口 健司 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球環境と水循環 自然科学特別研究	専	教授	谷口 健司 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球環境と水循環 自然科学特別研究	専	教授	谷口 健司 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球環境と水循環 自然科学特別研究
専	教授	沈 振江 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 計画支援システム学 自然科学特別研究	専	教授	沈 振江 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 計画支援システム学 自然科学特別研究	その他 講師		沈 振江 <令和6年4月> 博士(工学)	国際研究実践 計画支援システム学 環境技術政策概論 自然科学特別研究
専	教授	西野 達也 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 数理・データサイエンス・AI 発展 国際研究実践 建築計画学特論 自然科学特別研究 ジョブ型研究インターンシップ	専	教授	西野 達也 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 建築計画学特論 自然科学特別研究	専	教授	西野 達也 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 建築計画学特論 自然科学特別研究
専	教授	長谷川 卓 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 古環境変動解析論 自然科学特別研究	専	教授	長谷川 卓 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 古環境変動解析論 自然科学特別研究	専	教授	長谷川 卓 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 古環境変動解析論 自然科学特別研究
専	教授	長谷部 徳子 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 放射線地球学 自然科学特別研究	専	教授	長谷部 徳子 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 放射線地球学 自然科学特別研究	専	教授	長谷部 徳子 <令和6年4月> 博士(理学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 放射線地球学 自然科学特別研究
専	教授	畑 光彦 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境エアロゾル基礎 自然科学特別研究	専	教授	畑 光彦 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境エアロゾル基礎 自然科学特別研究	専	教授	畑 光彦 <令和6年4月> 博士(工学)	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境エアロゾル基礎 自然科学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	教授	平松 良浩 <令和6年4月> 博士(理学)	専	教授	平松 良浩 <令和6年4月> 博士(理学)	専	教授	平松 良浩 <令和6年4月> 博士(理学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震活動論 自然科学特別研究 地球惑星科学特論			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震活動論 自然科学特別研究 地球惑星科学特論			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震活動論 自然科学特別研究 地球惑星科学特論	
専	教授	深田 幸史 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	深田 幸史 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	深田 幸史 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境振動学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境振動学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境振動学 自然科学特別研究	
専	教授	福士 圭介 <令和6年4月> 博士(理学)	専	教授	福士 圭介 <令和6年4月> 博士(理学)	専	教授	福士 圭介 <令和6年4月> 博士(理学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球表層物質学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球表層物質学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球表層物質学 自然科学特別研究	
専	教授	本多 了 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	本多 了 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	本多 了 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境プロセス工学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境プロセス工学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境プロセス工学特論 自然科学特別研究	
専	教授	森下 知晃 <令和6年4月> 博士(理学)	専	教授	森下 知晃 <令和6年4月> 博士(理学)	専	教授	森下 知晃 <令和6年4月> 博士(理学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 マントル岩石学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 マントル岩石学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 マントル岩石学 自然科学特別研究	
専	教授	由比 政年 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	由比 政年 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	由比 政年 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 沿岸域の水理 自然科学特別研究 社会基盤工学特論			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 沿岸域の水理 自然科学特別研究 社会基盤工学特論			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 沿岸域の水理 自然科学特別研究 社会基盤工学特論	
専	准教授	臼井 洋一 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	臼井 洋一 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	臼井 洋一 <令和6年4月> 博士(理学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 岩石鉱物磁気学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 岩石鉱物磁気学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 岩石鉱物磁気学 自然科学特別研究	
専	准教授	遠藤 徳孝 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	遠藤 徳孝 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	遠藤 徳孝 <令和6年4月> 博士(理学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地形発達モデリング 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地形発達モデリング 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地形発達モデリング 自然科学特別研究	
専	准教授	奥寺 浩樹 <令和6年4月> 博士(学術)	専	准教授	奥寺 浩樹 <令和6年4月> 博士(学術)	専	准教授	奥寺 浩樹 <令和6年4月> 博士(学術)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 鉱物物理化学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 鉱物物理化学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 鉱物物理化学 自然科学特別研究	
専	准教授	久保 善司 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	久保 善司 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	久保 善司 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造物の診断学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造物の診断学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造物の診断学 自然科学特別研究	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	小林 俊一 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	小林 俊一 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	小林 俊一 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震解析学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震解析学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震解析学特論 自然科学特別研究
専	准教授	ジェンキンス ロバート <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	ジェンキンス ロバート <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	ジェンキンス ロバート <令和6年4月> 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 生態系進化化学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 生態系進化化学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 生態系進化化学 自然科学特別研究
専	准教授	阪田 義隆 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	阪田 義隆 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	阪田 義隆 <令和6年4月> 博士(理学)
		次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震情報処理特論 自然科学特別研究			国際研究実践 地震情報処理特論 防災工学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震情報処理特論 防災工学 自然科学特別研究
専	准教授	隅田 育郎 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	隅田 育郎 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	隅田 育郎 <令和6年4月> 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 次世代研究者倫理 国際研究実践 地球惑星ダイナミクス特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球惑星ダイナミクス特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地球惑星ダイナミクス特論 自然科学特別研究
専	准教授	中西 航 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	中西 航 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	中西 航 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 空間情報学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 空間情報学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 空間情報学特論 自然科学特別研究
専	准教授	二宮 順一 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	二宮 順一 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	二宮 順一 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 沿岸環境・防災工学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 沿岸環境・防災工学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 沿岸環境・防災工学 自然科学特別研究
専	准教授	藤生 慎 <令和6年4月> 博士(学際情報学)	専	准教授	藤生 慎 <令和6年4月> 博士(学際情報学)	専	准教授	藤生 慎 <令和6年4月> 博士(学際情報学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 防災計画学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 防災計画学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 防災計画学特論 自然科学特別研究
専	准教授	松浦 哲久 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	松浦 哲久 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	松浦 哲久 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境微生物工学特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境微生物工学特論 自然科学特別研究			次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ジョブ型研究インターンシップ 環境微生物工学特論 自然科学特別研究
専	准教授	松木 篤 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	松木 篤 <令和6年4月> 博士(理学)	専	准教授	松木 篤 <令和6年4月> 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 大気物質循環論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 大気物質循環論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 大気物質循環論 自然科学特別研究
			専	准教授	佐川 拓也 <令和6年4月> 博士(地球環境科学)	専	准教授	佐川 拓也 <令和6年4月> 博士(地球環境科学)
					次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ジョブ型研究インターンシップ 古気候学 自然科学特別研究			次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 ジョブ型研究インターンシップ 古気候学 自然科学特別研究
			専	准教授	原 宏江 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	原 宏江 <令和6年4月> 博士(工学)
					次世代研究者倫理 次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境トキシコロジー 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境トキシコロジー特論 自然科学特別研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			専	准教授	藤井 容子 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	藤井 容子 <令和6年4月> 博士(工学)
					次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 都市計画学特論 自然科学特別研究
			専	准教授	山口 裕通 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	山口 裕通 <令和6年4月> 博士(工学)
					次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 交通行動モデリング特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 交通行動モデリング特論 自然科学特別研究
専	准教授	花本 征也 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	花本 征也 <令和6年4月> 博士(工学)	専	准教授	花本 征也 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 水環境動態特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 水環境動態特論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 水環境動態特論 自然科学特別研究
						専	准教授	松本 邦彦 <令和6年11月> 博士(工学)
								次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 都市計画学特論 自然科学特別研究
専	講師	池本 敏和 <令和6年4月> 博士(工学)	専	講師	池本 敏和 <令和6年4月> 博士(工学)			
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震防災工学			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 地震防災工学			
						専	助教	水上 知行 <令和7年4月> 博士(理学)
								次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 構造岩石学 自然科学特別研究
						専	助教	熊 晴 <令和7年4月> 博士(工学)
								次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 自然科学特別研究
兼任・	教授	秋田 純一 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任・	教授	秋田 純一 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	教授	秋田 純一 <令和6年4月> 博士(工学)
		イノベーション方法論			イノベーション方法論			イノベーション方法論
兼任	教授	飯山 宏一 <令和6年4月> 博士(工学)						
		ジョブ型研究インターンシップ						
兼任	教授	小田 竜樹 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	教授	小田 竜樹 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	教授	小田 竜樹 <令和6年4月> 博士(理学)
		数理・ナノ物質理工学特論 1 数理・ナノ物質理工学特論 2			数理・ナノ物質理工学特論 1 数理・ナノ物質理工学特論 2			異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク 数理・ナノ物質理工学特論 1 数理・ナノ物質理工学特論 2
兼任	教授	笠原 禎也 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	教授	笠原 禎也 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	教授	笠原 禎也 <令和6年4月> 博士(工学)
		太陽地球系科学特論			太陽地球系科学特論			太陽地球系科学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	教授	木綿 隆弘 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	教授	木綿 隆弘 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	教授	木綿 隆弘 <令和6年4月> 博士(工学)
	技術経営論			ビジネス・技術マネジメント戦略論			ビジネス・技術マネジメント戦略論	
兼任	教授	竹内 裕 <令和6年4月> 博士(水産学)	兼任	教授	竹内 裕 <令和6年4月> 博士(水産学)	その他	教授	竹内 裕 <令和6年4月> 博士(水産学)
	フィールド生物学特論			フィールド生物学特論			フィールド生物学特論	
兼任	教授	仁宮 一章 <令和6年4月> 博士(工学)						
	次世代エッセンシャル実践							
兼任	教授	長谷川 浩 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	教授	長谷川 浩 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	教授	長谷川 浩 <令和6年4月> 博士(理学)
	異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク			異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク			異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク	
兼任	教授	松島 大輔 <令和6年4月> 博士(経営学)	兼任	教授	松島 大輔 <令和6年4月> 博士(経営学)	その他	教授	松島 大輔 <令和6年4月> 博士(経営学)
	次世代イノベーション開拓			次世代イノベーション開拓			次世代イノベーション開拓	
兼任	教授	八木谷 聡 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	教授	八木谷 聡 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	教授	八木谷 聡 <令和6年4月> 博士(工学)
	プロジェクトマネジメント			プロジェクトマネジメント			異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク プロジェクトマネジメント	
兼任	教授	米徳 大輔 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	教授	米徳 大輔 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	教授	米徳 大輔 <令和6年4月> 博士(理学)
	宇宙ミッション創出概論 宇宙物理学特論			宇宙ミッション創出概論 宇宙物理学特論			宇宙ミッション創出概論 宇宙物理学特論	
兼任	准教授	渡邊 哲陽 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	渡邊 哲陽 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	教授	渡邊 哲陽 <令和6年4月> 博士(工学)
	超スマート社会理工学領域探索 1 超スマート社会理工学領域探索 2			超スマート社会理工学領域 探索 1 超スマート社会理工学領域 探索 2			異分野研究 国際プレゼンテーション演習 国際プロジェクト演習 長期インターンシップ 海外フィールドワーク 超スマート社会理工学領域探索 1 超スマート社会理工学領域探索 2	
兼任	准教授	井町 智彦 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	井町 智彦 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	准教授	井町 智彦 <令和6年4月> 博士(工学)
	衛星機器開発特論			衛星機器開発特論			衛星機器開発特論	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	准教授	太田 明雄 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	太田 明雄 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	准教授	太田 明雄 <令和6年4月> 博士(理学)
	環境・エネルギー理工学特論			環境・エネルギー理工学特論			環境・エネルギー理工学特論	
			兼任	教授	前多 肇 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	教授	前多 肇 <令和6年4月> 博士(工学)
				次世代エッセンシャル実践			次世代エッセンシャル実践	
			兼任	教授	瀬戸 章文 <令和6年4月> 博士(工学)			
				ジョブ型研究インターンシップ				
			兼任	教授	谷内 暹 <令和6年4月> 博士(学術)			
				数理・データサイエンス・AI発展				
			兼任	准教授	中澤 嵩 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	准教授	中澤 嵩 <令和6年4月> 博士(理学)
				数理・データサイエンス・AI発展			数理・データサイエンス・AI発展	
						その他	准教授	勝野 弘康 <令和7年4月> 博士(理学)
								数理・データサイエンス・AI発展
						その他	准教授	中川 貴司 <令和7年4月> 博士(理学)
								数理・データサイエンス・AI発展
兼任	講師	青山 敏幸 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	講師	青山 敏幸 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	講師	青山 敏幸 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造のメンテナンス工学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造のメンテナンス工学 自然科学特別研究			国際研究実践 コンクリート構造のメンテナンス工学 自然科学特別研究	
兼任	講師	鈴木 雅博 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	講師	鈴木 雅博 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	講師	鈴木 雅博 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造の劣化抑制学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 コンクリート構造の劣化抑制学 自然科学特別研究			国際研究実践 コンクリート構造の劣化抑制学 自然科学特別研究	
兼任	講師	横山 広 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	講師	横山 広 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	講師	横山 広 <令和6年4月> 博士(工学)
	次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 橋梁メンテナンス概論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 橋梁メンテナンス概論 自然科学特別研究			国際研究実践 橋梁メンテナンス概論 自然科学特別研究	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	牧 祐之 <令和6年4月> 博士(工学)	兼任	講師	牧 祐之 <令和6年4月> 博士(工学)	その他	講師	牧 祐之 <令和6年4月> 博士(工学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 橋梁メンテナンスマネジメント 概論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 橋梁メンテナンスマネジメント 概論 自然科学特別研究			国際研究実践 橋梁メンテナンスマネジメント 概論 自然科学特別研究
兼任	講師	毛 其智 <令和6年4月> 工学博士	兼任	講師	毛 其智 <令和6年4月> 工学博士	その他	講師	毛 其智 <令和6年4月> 工学博士
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 都市・環境政策論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 都市・環境政策論 自然科学特別研究			国際研究実践 都市・環境政策論 自然科学特別研究
兼任	講師	左 剣悪 <令和6年4月> 工学博士	兼任	講師	左 剣悪 <令和6年4月> 工学博士			
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境技術政策概論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 環境技術政策概論 自然科学特別研究			
兼任	講師	龍 瀧 <令和6年4月> Ph. D of Urban Planning (中国)	兼任	講師	龍 瀧 <令和6年4月> Ph. D of Urban Planning (中国)	その他	講師	龍 瀧 <令和6年4月> Ph. D of Urban Planning (中国)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 スマートシティ・計画支援システム概論 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 スマートシティ・計画支援システム概論 自然科学特別研究			国際研究実践 スマートシティ・計画支援システム概論 自然科学特別研究
兼任	講師	田村 芳彦 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	講師	田村 芳彦 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	講師	田村 芳彦 <令和6年4月> 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 マグマ進化学II 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 マグマ進化学II 自然科学特別研究			国際研究実践 マグマ進化学II 自然科学特別研究
兼任	講師	阿部 なつ江 <令和6年4月> 博士(理学)	兼任	講師	阿部 なつ江 <令和6年4月> 博士(理学)	その他	講師	阿部 なつ江 <令和6年4月> 博士(理学)
		次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 海洋リソスフェア進化学 自然科学特別研究			次世代エッセンシャル実践 国際研究実践 海洋リソスフェア進化学 自然科学特別研究			国際研究実践 海洋リソスフェア進化学 自然科学特別研究
兼任	講師	大谷 マーシャ <令和6年4月> BA in Psychology (米國)	兼任	講師	大谷 マーシャ <令和6年4月> BA in Psychology (米國)	その他	講師	大谷 マーシャ <令和6年4月> BA in Psychology (米國)
		国際コミュニケーション演習			国際コミュニケーション演習			国際コミュニケーション演習
						その他	講師	富永 知徳 <令和6年4月> 博士(工学)
								国際研究実践 自然科学特別研究
						その他	講師	妙中 真治 <令和6年4月> Ph. D. (豪州)
								国際研究実践 自然科学特別研究

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)(その2の2)(その2の3)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任・兼任教員を含む。))を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
- ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」(改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」)の順に記入してください。
- ・改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。(大学院、高等専門学校は除く)
- ・教員がサ(テ)カル等で不在の期間がある場合、その期間(年月日)を上段「学位」の下へ記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・指定規則の改正により、新旧がキヨラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のキヨラム(新がキヨラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のキヨラム(旧がキヨラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・担当教員の見直しにより、専任教員の大橋政司、西野達也、阪田義隆、隅田青郎の担当授業科目を変更。
- ・異動により、専任教員に佐川拓也、原宏江、藤井容子、山口裕通が就任。
- ・担当教員の見直しにより、飯山宏一、仁宮一章の兼担を取り消し。
- ・授業科目名の変更により、専任教員の木綿隆弘の担当授業科目を変更。
- ・担当教員の見直しにより、兼担教員に前多肇、瀬戸章文、谷内通、中澤嵩が就任。

【令和7年度】

- ・専任教員の五十嵐心一、池本敏和が辞任。
- ・退職により沈振江が専任教員を辞退し、その他教員として就任。これに伴い、担当授業科目を変更。
- ・担当教員の見直しにより、専任教員の平松良浩、久保善司、阪田義隆、松浦哲久、佐川拓也、原宏江の担当授業科目を変更。
- ・授業科目の新設により、専任教員の藤井容子の担当授業科目を変更。
- ・専任教員に、松本邦彦、水上知行、熊曠が就任。
- ・担当教員の見直しにより、その他教員の小田竜樹、八木谷聡、渡邊哲陽の担当授業科目を変更。
- ・担当教員の見直しにより、その他教員の瀬戸章文、谷内通が辞任。
- ・担当教員の見直しにより、その他教員に勝野弘康、中川貴司が就任。
- ・担当教員の見直しにより、その他教員の青山敏幸、鈴木雅博、横山広、牧祐之、毛其智、龍瀧、田村芳彦、阿部なつ江の担当授業科目を変更。
- ・その他教員の左剣恵が就任辞退。
- ・その他教員に富永知徳、妙中真治が就任。

- 4
- (注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。
 - ・ **原則として A C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。**
- なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります）
- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
7	5	0
名	名	名

(注)・大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
16	14	1	0	31	0	14	19	0	2	35	0
(16)	(14)	(1)	(0)	(31)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
39	16	1	15			46	14	0	17		
(39)	(16)	(1)	(15)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
14	19	0	2	35	0	14	19	0	2	35	0
[Δ2]	[5]	[Δ1]	[2]	[4]	[0]	[Δ2]	[5]	[Δ1]	[2]	[4]	[0]
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
46	14	0	17			46	14	0	17		
[7]	[Δ2]	[Δ1]	[2]			[7]	[Δ2]	[Δ1]	[2]		

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、
 及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている
 教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、
 「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{35}{31} = \boxed{112.9} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{35} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹（専任）教員辞任等の理由

(3) - ① 基幹（専任）教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹（専任）教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 基幹（専任）教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	沈 振江	R7.3	必修	国際研究実践	②	R7.3.31付け他機関への転出による退職のため 就任辞退（令和7年度報告）			
				選択	計画支援システム学	②				
				選択	環境技術政策概論	②				
				必修	自然科学特別研究	②				
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	2	科目	計	2	科目

- (注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。（学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。）
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
 ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1 人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	2 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	4 科目	計	2 科目	計	2 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{31} = 3.22 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹(専任)教員等の状況

1 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹(専任)教員数の合計数を記載してください。

・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹(専任)教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹(専任)教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	五十嵐 心一	必修	次世代エッセンシャル実践	①	R7.3.31付け定年による退職のため就任辞退(令和7年度報告)			
			必修	国際研究実践	①				
			選択	セメントコンクリート組織学	①				
			必修	自然科学特別研究	①				
2	講師	池本 敏和	必修	次世代エッセンシャル実践	①	R7.3.31付け定年による退職のため就任辞退(令和7年度報告)			
			必修	国際研究実践	①				
			選択	地震防災工学	①				
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2 人	必修	5 科目	必修	5 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	7 科目	計	7 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(注) ・ 定年により退職した全ての基幹(専任)教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹(専任)教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼任教員)が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 基幹(専任)教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

学生に対しシラバスで周知を行っている。当該教員の担当授業科目においては、他の専任教員が担当することとなり、学生の履修等に影響はない。

(注)・ 上記(3)の基幹(専任)教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
	該当なし		

- (注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。
【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。
【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）（7）」と記載してください。
【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<自然科学研究科 地球社会基盤学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">該当なし</div>	

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教育方法改善委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和4年度は4回実施

令和5年度は3回実施

令和6年度は3回実施

c 委員会の審議事項等

教育方法改善に係る所事項審議・決定

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FDシンポジウム
- ・ 新任教員のための研修会

b 実施方法

- ・ オンラインで実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 令和5年4月26日（水）新任教員研修会（17名）
- ・ 令和5年7月26日（水）FDシンポジウム（66名）
- ・ 令和6年3月25日（月）FDシンポジウム（88名）
- ・ 令和6年5月 8日（水）新任教員研修会（17名）
- ・ 令和7年3月25日（火）FDシンポジウム（75名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FD・SD活動を通して、博士人材育成の重要性並びに大学による教学マネジメント体制及びその成果の共有、教育DXの推進を進めることで、授業改善につなげている。例えば、授業アンケートの結果を踏まえ、学生の「学び」を質保証するために何を求められているかなどをフィードバックして継続的な授業改善を実施している。また、新任教員への研修実施により、教授法のみでなく、学生との関わり方や授業評価アンケートの活用について伝えることが可能となり、よりスムーズに授業に取り組める体制を構築している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施(年4回、各クォーター終了後)

b 教員や学生への公開状況、方法等

理工系学生課のWebサイトに、課程ごとの集計結果を掲載(授業担当者はWebから担当科目のアンケート結果を参照し、授業改善に活用する。)

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
施設整備，教員配置，カリキュラム設計など，設置計画どおりに達成している。
- ② 自己点検・評価報告書
学内規程に基づき，定期的に，全学的な自己点検評価及び部局の自己点検評価を実施することとしている。
- a 公表（予定）時期
・自己点検を令和7年末までに公表予定
- b 公表方法
・大学Webサイト上に公開
- ③ 認証評価を受ける計画
・令和3年度に，評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受審し，適合の認定を受けた。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和7年度）
- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]
- ≪ aで「有」の場合 ≫
- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]
- ≪ aで公表「無」の場合 ≫
- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。